

あしりべつ郷土館だより

発行日 令和4年(2022年)10月25日
 発行者 あしりべつ郷土館運営委員会
 (鈴木 亨 会長)
 札幌市清田区清田1条2丁目5-3
 清田区民センター2階
 電話: 011-885-0869(水・土曜 10時~16時)

平岡公園小学校児童に
オンライン授業

あしりべつ郷土館は9月6日(火)、平岡公園小学校の3年生児童にオンライン授業を行いました。郷土館内で、郷土館スタッフの了寛紀明さん(郷土史家、元小学校長)と田山修三さん(北海道文化財保護協会副理事長、元小学校長)の2人がビデオカメラに向かって、館内に展示している農機具や生活道具などを説明し、昔の人たちの暮らしを分かりやすく説明しました。ビデオカメラ撮影、オンライン操作などもすべて郷土館スタッフで行いました。



郷土館からオンライン授業をする了寛さん(左)と田山さん。カメラは園部さん。

平岡公園小では3年生4クラスがそれぞれの教室で大型テレビの映像を見入り、清田区の昔の人たちの暮らしを学びました。質疑応答もオンラインで行いました。コロナ禍という事情で行った郷土館初のオンライン授業ですが、平岡公園小の先生たちの協力もあり、なんとかできました。児童たちも喜んでくれて、郷土館としても貴重な体験となりました。

札幌国際大学の学生
吉田用水跡を見学

札幌国際大学の学生約20名が5月11日(水)と18日(水)、あしりべつ郷土館のボランティアスタッフから清田区の歴史を学びました。大学の講義の一環です。11日は郷土館を集団見学し、18日は清田区の歴史遺産「吉田用水跡」(北野3条3丁目)を郷土館スタッフの解説付きで歩きました。コカ・コーラ裏の道端に建つ「吉田用水記念碑」も見学しました。

吉田用水は明治25年(1892年)頃、吉田善太郎という人が中心になって造った用水路。今のコカ・コーラ裏の厚別川(あしりべつ川)から取水し、北野、大谷地方面に水田用水を供給しました。吉田用水は長さが5kmありましたが、昭和40年代、宅地化が進み、ほとんどが埋め立てられました。しかし、北野には長さ500mにわたって吉田用水跡が帯状の緑地帯として奇跡的に残っています。

札幌国際大学は6月15日にも、別のゼミの学生4名が郷土館スタッフとともに吉田用水跡や八紘学園など吉田善太郎ゆかりの地を巡りました。



吉田用水跡を訪れた札幌国際大学の学生たち
北野3条3丁目

■北広島市市民大学OB会が来館

北広島市の「まちを好きになる市民大学OB会」の一行12人が6月1日(水)、あしりべつ郷土館に来館されました。館内の展示を見学し、あしりべつ郷土館のボランティアスタッフと意見を交換して交流しました。



北広島市民(右側)と交流する郷土館スタッフ(左側)

■さっぽろ香雪病院の
患者さんが集団見学

さっぽろ香雪病院(清田区真栄319番地)の患者さん20名ほどが5月13日(金)、あしりべつ郷土館を訪れ、集団見学しました。展示している昔の農機具や生活道具を見て回り、年配の方が「この道具、昔、家にあったよ」と懐かしそうでした。6月8日と6月15日にも、患者さんたちが集団見学で来館しました。

■北野ふれあい
夏まつりに出展

あしりべつ郷土館は7月16日(土)、第30回北野ふれあい夏まつりに北野の歴史パネル展を出展しました。「北野にある人の名前の付いた橋」と「北野の歴史遺産・吉田用水跡」の2テーマで、写真や地図のパネルを展示しました。

明治期 平岡にあった「山鼻屯田給与地」

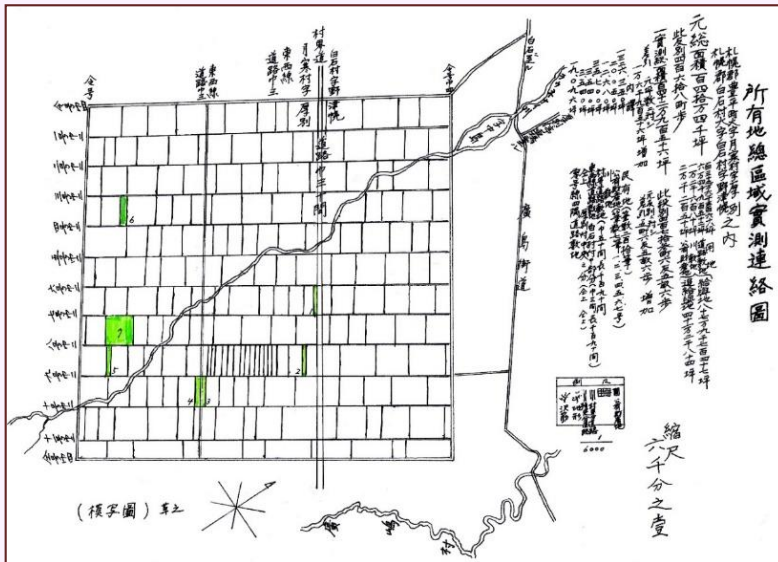
1. 屯田兵について

屯田兵は、明治期に北海道の開拓と北方警備を行った兵士です。1874年（明治7年）に規則が設けられました。西南戦争や日清戦争、日露戦争などに出兵しています。

その屯田兵一戸に1万5千坪の土地が与えられました。（士官や将校には、格差を付けてさらに多くの土地給与がなされました）。その土地が現在の清田区や厚別区に所在していました。

2. 「山鼻屯田給与地」の図面

下の図は「所有地總区域実測連絡図」（屯田兵への土地給与のための図面）を筆者が模写した図面です。



図には、現在の厚別区の大谷地東・上野幌と現在の清田区の平岡・平岡公園・平岡公園東にあった「山鼻屯田給与地」が記されています。

右側3分の1が厚別区の上野幌で、左側3分の2が清田区の平岡・平岡公園などに位置しています。細かく分けられており、緑色の7か所が「公有地」で、残りの170か所が屯田兵個人への「給与地」に当たります。

総面積が、140万4千坪（約460万㎡）の広さがあったと記されています。

3. 「山鼻屯田給与地」があった位置について



左の図は、現在の地図で、上がやや北です。南北の長さは、約1,177間（約2120m）で、東西の長さは、約1,216間（約2189m）です。

- ・右上角は、雪印種苗の付近となります。
- ・左上角は、大谷地病院の付近に当たります。
- ・中央の横線は、東北通・東栄通で白石村（上）と月寒村（下）の境界線でした。
- ・右下角は、里塚緑ヶ丘3丁目ホクレン付近です。
- ・左下角は、中央バス平岡営業所の付近です。

給与地の広さは、札幌ドーム（約5万5千㎡）が約80個分以上もあるような面積となっていました。

所有した土地が山鼻村から遠い所にあったため、多くの屯田兵の人たちは、開墾しないまま他の人に売っています。給与地は、二里川（今は埋め立てられ清田区内には流れていません）や三里川の川沿いに水田を試みて開けて行きましたが、地形的に稲作に適した土地とは言えませんでした。

（了寛紀明）

北野にあった名門ゴルフ場・札幌ゴルフ倶楽部

北広島市輪厚の札幌ゴルフ倶楽部輪厚コースは北海道のゴルフ場を代表する名門ゴルフ場です。その前身となる札幌ゴルフ倶楽部「月寒リンクス」が、戦時中まで北野にあったことはあまり知られていません。

月寒(つきさむ)リンクスが誕生したのは昭和7年(1932年)。この年、当時の札幌の経済人らにより、まず9ホールを開設。翌年に9ホール増設し、18ホール(6200ヤード、パー72)の堂々たるゴルフ場が誕生しました。

場所は、今の清田区北野1条1丁目、同2丁目、北野2条1丁目、同2丁目、北野3条1丁目、豊平区月寒東1条20丁目、月寒東2条20丁目、月寒東3条19丁目あたりです。

今の「つきさむ温泉」や、北野ふれあい公園、豊平区体育館がすっぽり入り、吉田川公園も一部入っていました。北野と月寒東にまたがる地域にありました。

洋風のしゃれたクラブハウスが、今の「つきさむ温泉」西側駐車場あたりにあったそうです。



月寒リンクス(「豊平町写真帖」=札幌市中央図書館所蔵)



札幌ゴルフ倶楽部輪厚コース

しかし、戦争が激しくなり、昭和18年(1943年)に閉鎖され、ゴルフ場は食料増産のための畑になり、戦後は農地解放により自作農家の農地になりました。クラブハウスは戦争中、軍隊の通信施設になり、戦後は月寒に移設され、公民館として使用され、その後、警察の派出所となるなど数奇な経過をたどりました。今はありません。

こうした経緯や場所の特定などは、清田区の郷土史家、了寛紀明氏の研究で近年、かなり明らかになってきました。

札幌ゴルフ倶楽部は、その後、昭和33年(1958年)に北広島市輪厚で開場し、かつての「月寒リンクス」を引き継いで札幌ゴルフ倶楽部輪厚コースとして今日に至っています。かつて北野にあった東京以北随一の名門ゴルフ場。清田区にはこういう歴史もあったのです。

(川島亨)



月寒リンクスがあった場所
(緑色の線で囲った範囲=了寛紀明氏作成)

清田区の郷土史家 埋もれた歴史を発掘 了寛紀明さんに山田区長から表彰状

清田区の歴史を発掘している里塚在住の郷土史家、了寛紀明さんに2021年12月16日、山田一八清田区長から表彰状が贈られました。了寛さんが本格的に清田区の郷土史の調査研究を始めたのは平成3年(1991年)頃からで、30年ほどになるそうです。

清田区は、明治の開拓期から月寒村や豊平町の一部だった農村の歴史が長く、昔の記録や資料がきちんと残ってなく、その歴史は明らかになっていない部分が数多くありました。

了寛さんは北大図書館や道立図書館、道立文書館などに再三足を運び、丹念に昔の史料や古地図、絵図、新聞記事などを収集し、明治以降の清田区150年の歴史を実証的につまびらかにしてきました。昔の事情を知る古老らの話も聞き取ってきました。

そうした成果を「清田発掘」シリーズというレポート冊子にして、まとめてきました。「清田発掘」シリーズは既に60冊以上に及び、そのすべてが「あしりべつ郷土館」に収められ、誰でも閲覧可能になっています。了寛さんは2019年から「あしりべつ郷土館」の運営に学芸員的な立場で携わっています。



了寛先生、区長から感謝状

清田区歴史パネル展 区民センターで開催

あしりべつ郷土館は3月24日～4月6日までと4月14日～4月27日の2回に分けて、清田区歴史パネル展を清田区民センターで実施しました。

前半のテーマは「開拓の始まりの頃」と「国道36号線 道の歴史」、後半は「清田区の歴史遺産・吉田用水跡」と「農村時代の記憶」をテーマに開催しました。

清田区民センターの廊下の壁に、清田区の歴史を示す写真や歴史資料、地図をパネルにして展示しました。



歴史パネル展＝清田区民センター

寄贈資料

以下の資料を寄贈していただきました。ありがとうございます。

- ・了寛紀明氏 清田発掘「明治大正期の厚別神社の旧本殿・碑」など15点
- ・高尾英男氏「開拓館をめぐる旅」など2点
- ・田山修三氏 土器破片2点
- ・熊澤修氏「シノロ〜140年のあゆみ」
- ・札幌国際大学「縄文世界遺産登録記念号 2021年度版」



利用案内

- 開館日 水曜日・土曜日
- 時間 10時～16時
- 入館料 無料
- 場所 札幌市清田区清田1条2丁目5-3 清田区民センター2階
- 運営主体 清田区内の町内会連合会でつくる運営委員会(清田区民による自主運営です)

■郷土館ホームページ■

<https://ashiribetsu-museum.com/>

郷土館の
ホームページ
QRコード



アクセス・マップ



中央バス「清田小学校」から約520m

編集後記

コロナの感染拡大などで発行が予定より遅れましたが、なんとか「郷土館だより」第3号を発行できました。この冊子は郷土館に置いてあります。ご自由にお持ちください。(川島亨)

